25 journal
society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU　okamura.nobuyoshi@gmail.com

29世住職に康文（松風）さん
福正寺で25年ぶり晋山式
瑞穂町

瑞穂町殿ヶ谷の臨済宗建長寺派の古刹、金龍山福正寺で10月26日、新住職就任の儀式「晋山式」が営まれた。新住職は鈴木康文（松風）さん（45）。25年余りお寺を背負ってきた前住職の父、文雄（松龍）さん（74）に代わり、29世住職に就いた。

300余人が門出を祝う

関係諸寺の僧侶に囲まれ、住職としての覚悟を固めた康文さん（前列左から8人目）

檀家の江川伸一さん宅に設けられた安下所を出て、康文さんは稚児の先導で住民に見守られながら1キロ近い道を歩き、檀信徒ら300人余りが集まる同寺に到着。山門で覚悟を示す山門偈を行い、本堂に入堂した。

関係諸寺の約130人の僧侶が読経する中、住職辞令が建長寺の吉田正道管長から康文さんに授与された。

式では清水寺の森清範貫主の法話が門出に花を添えた。

康文さんは「福正寺を護り、檀信徒や先祖が安らかでいられる場所をつくることが恩返しになる」と決意を表明した。

康文さんはあきる野市の東海大菅生高校13期生。母方の旧秋川市長の近藤秀雄氏は祖父にあたる。亜細亜大法学部、城西国際大人文学部修士を卒業。建長寺で修行し、2006年から福正寺副住職を務め、前住職を支えてきた。

前日には文雄さんの退山式が滞りなく行われた。

福正寺は寺伝によると普照大光国師を勧請し、1318（文禄二）年に開山した。近隣に多くの末寺を擁し、江戸時代には寺領10石の御朱印状を拝領した。

2018年に開山700年大遠諱法要を執り行い、総門、本堂などを修復する平成の大修復を済ませた。

狭山三十三観音霊場25番札所で、観音堂は同町指定有形文化財、たらようの木は同町指定天然記念物になっている。

今年の漢字で知られる森清範貫主の法話

住職辞令を受ける康文さん（右）

地震から青梅市移転など語る
「税を考える週間」記念講演会で
梅澤日本航空学園理事長

青梅税務署が主催した「税を考える週間」記念講演会が11月18日、都青梅合同庁舎（青梅市河辺町）で開催された。日本航空学園理事長の梅澤重雄さんが能登地震で被災し青梅に移転した学校の様子などを語った。

同学園は梅澤さんの祖父が創設し、建学92年を迎える。戦後は航空時代の未来を見据え、1960年に航空工業高等学校として再開。64年に日本航空高等学校に改名した。

同学園は現在、高校、大学を石川（多くが青梅に移転中）と北海道に、高校、中学を山梨に展開。通信制課程も整えている。梅澤さんは1992年に理事長になった。

講演では、学園の沿革、各キャンパスの様子をプロモーションビデオで紹介。「長所伸展」「共感共創」などを方針に教育に当たっているとし、卒業生は多くが航空関係従事者となり、CA合格率は日本一だとした。

能登地震では発生翌朝に支援物資を積んで半日かけて石川に到着。寮生たちが正月で帰宅しているのを確認した後、備蓄倉庫にあった9000食分の食料と水を被災者に配り、学校を復旧の前線基地に提供したという。

授業の場を確保するための移転では多くの人脈を生かし交渉に当たり、小池都知事らの計らいで青梅に決定した。青梅市関係者や教職員らの努力で、仮設住宅付きの避難キャンパスが設けられたことなどに感謝した。また、被災に遭いながら高校スポーツで全国レベルの活躍を見せている生徒たちを称えた。今後も、生徒や学生が楽しく成長できる教育現場を目指したいと前向きに語った。

能登地震で被災し青梅に移転した学校の様子などを語る梅澤理事長

梅澤さんの講演に先立ち、内田昭彦青梅税務署長が「税務調査の将来」について語り、DX（デジタルトランスフォーメーション）で税務調査の方法は大きく変わるとし、適正な申告の確保と不適正な申告の是正にしっかり取り組むとした。

情報共有×活用
街プレ・西多摩経済新聞で情報発信
共有・活用して
まちづくり・人づくり・幸せづくりを応援